

ブロック：日本海ブロック

1. モロトゲアカエビ・日本海北中部（青森～石川）

海域	日本海北中部（青森～石川）	参加機関	水産資源研究所底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター
----	---------------	------	--

(1) 調査の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・水産資源研は生物情報の収集、各県漁獲情報の集約を実施。また、日本海北部において、資源量調査（日本海北部底魚資源調査）と標本船調査（体制構築含む）を実施。 ・各県は漁獲統計の収集を実施。
--

(2) データ収集状況

<ul style="list-style-type: none"> ・青森県では2007年以降の年間漁獲量と2019年以降の漁法別月別漁獲量を収集済み（*1）。 ・秋田県では2019年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。 ・山形県では2019年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み（*2）。 ・新潟県では2019年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み（*3）。 ・富山県では2019年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。 ・石川県では主要10港の2011年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。 ・水産資源研では日本海北部における資源量調査を2016年以降実施。採集数が少ないことを考慮し、精査中。また、福井県～島根県では漁獲量が1トン未満もしくはその統計がないことを確認。 <p>*1 主要2港のみで漁獲実績あり。実際の漁獲物による種同定が再度必要と推察。</p> <p>*2 統計上はしまえび（トヤマエビ）の一部であり精査必要。</p> <p>*3 本種を区別した集計がある漁協は一部のみ。実際より明らかに過少。</p>
--

(3) 生物学的特性

<ol style="list-style-type: none"> (1) 分布・回遊：文献から分布情報を収集済み。 (2) 年齢・成長：文献から情報収集中。 (3) 成熟・産卵：文献から情報収集中。 (4) 被捕食関係：文献から情報収集中。
--

(4) 備考

- 漁業現場で区別されている地域でも集計では他種と合算されている可能性がある。
- 各地、漁獲量は極めて少なく、モニタリング体制について、再検討が必要。
- 日本海北部による資源調査および標本船調査でのデータ蓄積がさらに必要。
- 日本海西部で実施している資源調査と比較し、本海域との分布の連続性を検討することも重要。

2. コブダイ・日本海（青森～京都、鳥取～島根）

海域	日本海（青森～島根）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
----	------------	------	---

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、各県漁獲情報の集約を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

- ・青森県では主要21港（日本海側～陸奥湾）の、2007年以降の年間漁獲量と2020年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・秋田県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・山形県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・新潟県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2016～2019年は精査中。
- ・富山県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・石川県では主要10港の2012年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・福井県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。一部漁港のみ、2014年以降精査中。
- ・京都府では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・鳥取県では2011年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・島根県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2007～2019年は精査中。
- ・水産資源研では、兵庫県では漁獲がほぼなく集計値もないことを確認するとともに、各府県で漁獲量が極めて少なく、多くの府県が1トン未満であることを確認。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献から分布情報を収集済み。
- (2) 年齢・成長：文献から情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：文献から情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献から情報収集中。

(4) 備考

- ・漁業現場で区別されていても、集計値としては他種と合算されている可能性がある。
- ・各地、漁獲量は極めて少なく、モニタリング体制の再検討が必要。

3. シロギス・日本海（秋田～京都、鳥取～島根）

海域	日本海（秋田～京都、鳥取～島根）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
----	------------------	------	--

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、各県漁獲情報の集約を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

- ・青森県では主要21港（日本海側～陸奥湾）の、2007年以降の年間漁獲量と2020年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・秋田県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・山形県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・新潟県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2016～2019年は精査中。また、1999年以降の年計があること、確認済み。
- ・富山県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・石川県では主要10港の2012年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・福井県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2016～2019年は精査中。
- ・京都府では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・鳥取県では2011年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・島根県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2007～2019年は精査中。
- ・水産資源研では、兵庫県では漁獲がほぼなく集計値がないことを確認するとともに、各府県で漁獲量が極めて少なく、多くの府県が1トン未満であることを確認。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献から分布情報を収集済み。
- (2) 年齢・成長：文献から情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：文献から情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献から情報収集中。

(4) 備考

- ・ごく沿岸における漁業の変遷と漁獲規制を把握し、漁獲情報を精査することが重要。
- ・本種の分布の連続性や各地先個体群の遺伝学的関係を調べることが重要。

4. チカメキントキ・日本海（富山～石川、鳥取～島根）

海域	日本海（富山～石川、鳥取～島根）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
----	------------------	------	---

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、各県漁獲情報の集約を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

- ・青森県では主要21港（日本海側～陸奥湾）の、2007年以降の年間漁獲量と2020年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・山形県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・新潟県では一部漁港の2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2016～2019年は精査中。
- ・富山県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・石川県では主要10港の2012年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・鳥取県では2011年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・島根県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2007～2019年は精査中。
- ・水産資源研では、秋田県、京都府、福井県、兵庫県では、漁獲がほぼなく、漁獲されてもその他の扱いとなるなどで、集計値がないことを確認済み。また、青森県、山形県では、漁獲量は1トン未満であることを確認。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献から分布情報を収集済み。
- (2) 年齢・成長：文献から情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：文献から情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献から情報収集中。

(4) 備考

- ・漁業現場で区別されている地域でも、集計では他種と合算されている可能性がある。
- ・日本海北中部は、漁獲量が少なく、モニタリング体制についても再検討が必要。
- ・日本海南西部と日本海北中部の個体群の遺伝的關係を調べるのが重要。

5. ニベ・日本海（青森～島根）

海域	日本海（青森～島根）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部
----	------------	------	-------------------------

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集と各府県漁獲状況の聞き取りを実施。
- ・各府県は漁獲状況と統計値の有無を確認。

(2) データ収集状況

- ・水産資源研では、全府県で漁獲されている形跡がほぼなく、集計値がないことを確認。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献から分布情報を収集済み。
- (2) 年齢・成長：文献から情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：文献から情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献から情報収集中。

(4) 備考

- ・ニベ科の集計があった地域もあったが、いずれも近縁種のシログチであった。仮に、本種が水揚げされたとしても極めて珍しいと考えられる。
- ・漁獲量集計の収集が困難と考えられ、モニタリング体制について再検討が不可欠。

6. ノロゲンゲ・日本海（秋田～鳥取）

海域	日本海（秋田～鳥取）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場
----	------------	------	---

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、各県漁獲情報の集約を実施。また、日本海北部において、資源量調査（日本海北部底魚資源調査）と標本船調査（体制構築含む）を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

- ・秋田県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・山形県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・新潟県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・富山県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・石川県では主要10港の2012年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・福井県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。2015年～2018年は精査中。
 - ・京都府では1990年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・兵庫県では1981年以降の月別漁獲量を収集済み。
 - ・鳥取県では2011年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・水産資源研では、日本海西部における資源調査を2015年以降実施。日本海北部における資源調査を2016年以降実施。直接推定された現存量を精査中。また、青森県、島根県では漁獲量が1トン未満もしくはその統計がないことを確認。
- *1 漁獲量集計値には、本種が主体ではあるが、他のゲンゲ類（タナカゲンゲ、クロゲンゲ、クサウオ等）と混ざっていることがある。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献から分布情報を収集済み。
- (2) 年齢・成長：資源調査で得た標本を用いた研究結果や文献から情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：資源調査で得た標本を用いた研究結果や文献から情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献から情報収集中。

(4) 備考

- ・漁業現場で区別されている地域でも集計では他種と合算されている可能性がある。
- ・日本海西部で実施している資源調査に基づき現存量を推定するとともに、日本海北部の

調査結果とあわせ、日本海全域における分布の連続性を検討することが重要。

- 日本海北部による資源調査および標本船調査でのデータ蓄積がさらに必要。

7. マハタ・日本海（青森～福井、鳥取～島根）

海域	日本海（秋田～鳥取）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
----	------------	------	---

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、各県漁獲情報の集約を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

- ・青森県では主要21港（日本海側～陸奥湾）の2007年以降の年間漁獲量と2019年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・秋田県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・山形県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・新潟県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2016～2019年は精査中。
 - ・富山県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・石川県では主要10港の2012年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・福井県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2015年～2018年は精査中。
 - ・鳥取県では2011年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・島根県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2007～2019年は精査中。
 - ・水産資源研では、京都府、兵庫県では漁獲がほぼないもしくは集計値がないことを確認するとともに、各府県で漁獲量が少なく、多くの府県が1トン未満であることを確認。
- *1 漁獲量集計値には、2017年以前はキジハタが含まれる。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献から分布情報を収集済み。
- (2) 年齢・成長：文献から情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：文献から情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献から情報収集中。

(4) 備考

- ・漁業現場で区別されている地域でも集計では他種と合算されている可能性がある。
- ・各地、漁獲量は少なく、モニタリング体制について、再検討が必要。
- ・漁獲がほぼない地域もあり、日本海における分布の連続性や各地先個体群の遺伝的関係を調べるのが重要。

8. マフグ・日本海（青森～島根）

海域	日本海（青森～島根）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
----	------------	------	---

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、各県漁獲情報の集約を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

- ・青森県では主要21港（日本海側～陸奥湾）の2007年以降の年間漁獲量と2019年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・秋田県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・山形県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・新潟県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。2016～2019年は精査中。
 - ・石川県では主要10港の2012年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・福井県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・兵庫県では1971年以降の月別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・鳥取県では2011年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・島根県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・水産資源研では、富山県、京都府では集計値がないことを確認。
- *1 漁獲量集計値には、他のフグ類が多く含まれる。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献から分布情報を収集済み。
- (2) 年齢・成長：文献から情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：文献から情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献から情報収集中。

(4) 備考

- ・漁業現場で区別されている地域でも集計では他種と合算されている可能性がある。
- ・各地、漁獲量は少なく、モニタリング体制について、再検討が必要。
- ・漁獲がほぼない地域もあり、日本海における分布の連続性や各地先個体群の遺伝的関係を調べるのが重要。

9. シラエビ・日本海北中部（新潟～富山）

海域	日本海北中部（新潟～富山）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所
----	---------------	------	---

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、各県漁獲情報の集約を実施。また、日本海北部において、資源量調査（日本海北部底魚資源調査）を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

- ・富山県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・石川県では主要10港の2012年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・水産資源研では、青森県～山形県、石川県～島根県では漁獲がほぼなく、集計値がないことを確認した。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献から分布情報を収集済み。
- (2) 年齢・成長：文献から情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：文献から情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献から情報収集中。

(4) 備考

- ・漁獲されている地域が限定されている。資源調査結果等により分布を把握するとともに、分布域と漁場との位置関係を調べることが重要である。

10. エゾボラモドキ・日本海（山形～島根）

海域	日本海（山形～島根）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
----	------------	------	---

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、各県漁獲情報の集約を実施。また、日本海西部、日本海北部において、資源調査（日本海ズワイガニ等底魚資源調査、日本海北部底魚資源調査）。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

- ・秋田県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・山形県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・新潟県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。2016～2019年は精査中。
 - ・富山県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・石川県では主要10港の2011年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み（*2）。
 - ・福井県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。2015年～2018年は精査中。
 - ・京都府では2020年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・兵庫県では1974年以降の月別漁獲量を収集済み（*2）。
 - ・鳥取県では1997年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み（*2）。
 - ・島根県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・水産資源研では日本海北部における資源量調査を2016年以降実施。また、青森県、秋田県、福井県～島根県では漁獲量が1トン未満もしくはその統計がないことを確認。
- *1 他のバイ類（チヂミエゾボラ、オオエッチュウバイ、エッチュウバイ、カガバイなど）が含まれる。
- *2 およそ本種がほとんどではあるが、他のバイ類も含まれる可能性がある。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献から分布情報を収集済み。
- (2) 年齢・成長：文献から情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：文献から情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献から情報収集中。

(4) 備考

- ・多くの地域において、集計では他種と合算されている。
- ・日本海北部および日本海西部における資源調査に基づき、日本海全域における分布を把握することが重要。

11. エッチュウバイ・日本海西部（石川～島根）

海域	日本海西部（石川～島根）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
----	--------------	------	--

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、各県漁獲情報の集約を実施。また、日本海北部において、資源量調査（日本海北部底魚資源調査）を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

- ・石川県では主要10港の2012年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・福井県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*2）。2015年～2018年は精査中。
 - ・京都府では2020年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み（*2）。
 - ・兵庫県では1974年以降の月別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・鳥取県では1997年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・島根県では2019年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*2）。
 - ・水産資源研では日本海西部、日本海北部において資源調査を実施。また、青森県～富山県では、漁獲量が1トン未満もしくはその統計がない、集計があっても多数の他種の合算で本種の漁獲量は少ないと推察されることを確認。
- *1 およそ本種がほとんどではあるが、他のバイ類も含まれる可能性がある。
- *2 他のバイ類（エゾボラモドキ、チヂミエゾボラ、オオエッチュウバイ、カガバイなど）が含まれる。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献から分布情報を収集済み。
- (2) 年齢・成長：文献から情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：文献から情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献から情報収集中。

(4) 備考

- ・多くの地域において、集計では他種と合算されている。
- ・日本海北部および日本海西部における資源調査に基づき、日本海全域における分布を把握することが重要。

12. クロアワビ・日本海（青森～島根）

海域	日本海（秋田～島根）	参加機関	水産研究・教育機構 水産技術研究所 沿岸生態システム部、水産資源研究所 底魚資源部、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
----	------------	------	---

(1) 調査の概要

- ・水産技術研は生物情報の収集、水産資源研は各府県漁獲情報の集約を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

- ・秋田県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・山形県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・新潟県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。また、1951年以降の年間漁獲量および2006年以降の月別漁法別漁獲量を精査中。
 - ・富山県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・石川県では主要10港の2012年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・福井県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・京都府では2020年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・兵庫県では1971年以降の月別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・鳥取県では2011年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・島根県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・水産資源研では、青森県では漁獲量が1トン未満もしくはその統計がないことを確認。
- *1 他のアワビ類（エゾアワビ、メガイアワビなど）も含まれる。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献から分布情報を収集済み。
- (2) 年齢・成長：文献から情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：文献から情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献から情報収集中。

(4) 備考

- ・多くの地域で、集計では他種と合算されており、精査が不可欠。
- ・各地先個体群の遺伝学的関係を調べることが重要。

13. メガイアワビ・日本海西部（福井～京都、鳥取～島根）

海域	日本海西部（石川～島根）	参加機関	水産研究・教育機構 水産技術研究所 沿岸生態システム部、水産資源研究所 底魚資源部、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
----	--------------	------	--

(1) 調査の概要

- ・水産技術研は生物情報の収集、水産資源研は各府県漁獲情報の集約を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

- ・石川県では主要10港のうち、本種を区別して扱う一部漁港における2012年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。ただし、主な漁港ではアワビ類の集計となっており、県内全域での漁獲量は不明。
 - ・福井県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・京都府では2020年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・兵庫県では1971年以降の月別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・鳥取県では2011年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・島根県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・水産資源研では、青森県では漁獲量が1トン未満もしくはその統計がないことを確認。秋田県～富山県では、アワビ類とした集計値はあるが、本種は少ないと推察されることを確認。
- *1 他のアワビ類（クロアワビ、エゾアワビ、マダカアワビなど）も含まれる。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献から分布情報を収集済み。
- (2) 年齢・成長：文献から情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：文献から情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献から情報収集中。

(4) 備考

- ・多くの地域で、集計では他種と合算されており、精査が不可欠。
- ・各地先個体群の遺伝学的関係を調べることが重要。

14. サザエ・日本海（青森～島根）

海域	日本海（青森～島根）	参加機関	水産研究・教育機構 水産技術研究所 沿岸生態システム部、水産資源研究所 底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
----	------------	------	--

(1) 調査の概要

- ・水産技術研は生物情報の収集、水産資源研は各府県漁獲情報の集約を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

- ・青森県では主要21港（日本海側～陸奥湾）の2007年以降の年間漁獲量と2020年の月別漁獲量を集計済み。
- ・秋田県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・山形県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・新潟県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。また、1951年以降の年間漁獲量および2006年以降の月別漁法別漁獲量を精査中。
- ・富山県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・石川県では主要10港の2011年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・福井県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2014年～2019年は精査中。
- ・京都府では2020年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・兵庫県では1974年以降の月別漁獲量を収集済み。
- ・鳥取県では1997年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・島根県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献から分布情報を収集済み。
- (2) 年齢・成長：文献から情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：文献から情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献から情報収集中。

(4) 備考

- ・各地先個体群の遺伝学的関係を調べるのが重要。

15. アカムツ・日本海（青森～山口）

海域	日本海（青森～山口）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター、山口県水産研究センター
----	------------	------	--

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、各県漁獲情報の集約を実施。また、日本海北部において、資源調査（日本海北部底魚資源調査）と標本船調査（体制構築含む）を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

- ・青森県では主要港（日本海側）の2007年以降の年間漁獲量と2019年以降の漁法別月別漁獲量を収集済み。
 - ・秋田県では2007年以降の年間漁獲量と2019年以降の漁法別月別漁獲量を収集済み。
 - ・山形県では2007年以降の年間漁獲量と2019年以降の漁法別月別漁獲量を収集済み。
 - ・新潟県では2007年以降の年間漁獲量と2019年以降の漁法別月別漁獲量を収集済み。
 - ・富山県では2007年以降の年間漁獲量と2019年以降の漁法別月別漁獲量を収集済み。
 - ・石川県では2007年以降の年間漁獲量と主要10港の2011年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・福井県では2007年以降の年間漁獲量を収集済み。
 - ・京都府では2007年以降の年間漁獲量と2019年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・兵庫県では2010年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・鳥取県では1975年以降の月別漁獲量を収集済み（*1）。
 - ・島根県では2007年以降の年間漁獲量と2019年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・山口県では2007年以降の年間漁獲量と2019年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・水産資源研では日本海北部における資源量調査を2016年以降実施。採集数が少ないことを考慮し、精査中。
- *1 沖合底びき網による漁獲量の集計である。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：令和2年度評価報告書を参照
- (2) 年齢・成長：令和2年度評価報告書を参照
- (3) 成熟・産卵：令和2年度評価報告書を参照

(4) 被捕食関係：令和2年度評価報告書を参照

(4) 備考

- 日本海北部による資源調査および標本船調査でのデータ蓄積がさらに必要。
- 日本海北部と日本海西部の個体群の遺伝学的関係を確認することが重要。

16. ウスメバル・日本海（青森～山口）

海域	日本海（青森～山口）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター、山口県水産研究センター
----	------------	------	--

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、各県漁獲情報の集約を実施。また、日本海北部において標本船調査（体制構築含む）を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

- 各機関により、令和2年度評価で用いた情報に加え、以下の通り情報収集を実施した。
- ・青森県では県内全域の2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・秋田県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・山形県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・新潟県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・富山県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・石川県では主要10港の2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・福井県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2016～2019年は精査中。
 - ・京都府では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・鳥取県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・島根県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2007～2018年は精査中。
 - ・山口県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・水産資源研では各府県の漁獲量を集約した。また、日本海北部における標本船調査（体制の構築を含む）を関係県とともに開始。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：令和2年度評価報告書を参照
- (2) 年齢・成長：令和2年度評価報告書を参照
- (3) 成熟・産卵：令和2年度評価報告書を参照
- (4) 被捕食関係：令和2年度評価報告書を参照

(4) 備考

- ・日本海北部による標本船調査でのデータ蓄積がさらに必要。

16. ヒレグロ・日本海（青森～山口）

海域	日本海（青森～山口）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
----	------------	------	--

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、各県漁獲情報の集約を実施。また、日本海西部と日本海北部において、資源調査（日本海ズワイガニ等底魚資源調査、日本海北部底魚資源調査）を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

- 各機関により、令和2年度評価で用いた情報に加え、以下の通り情報収集を実施した。
- ・青森県では主要21港（日本海側～陸奥湾）の2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・秋田県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・山形県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・新潟県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2006～2018年の月別漁法別漁獲量ならびに1975年以降の年間漁獲量を精査中。
 - ・富山県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・石川県では主要10港の2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・福井県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2016～2018年は精査中。
 - ・京都府では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・鳥取県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・島根県では2020年の月別漁法別漁獲量をならびに2007～2018年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・水産資源研では各府県の漁獲量を集約した。また、日本海西部と日本海北部における資源調査を実施。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：令和2年度評価報告書を参照
- (2) 年齢・成長：令和2年度評価報告書を参照
- (3) 成熟・産卵：令和2年度評価報告書を参照
- (4) 被捕食関係：令和2年度評価報告書を参照

(4) 備考

- 日本海西部と日本海北部による資源調査に基づき資源量指標値を得る事が重要。
- 標本船調査の体制構築を進め、詳細な漁獲状況を把握することが重要。
- 日本海西部と日本海北部の個体群の生物学的・遺伝学的関係を調べる事が重要。

17. チダイ・日本海（青森～島根）

海域	日本海（青森～島根）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
----	------------	------	--

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、農林統計および各県調べの漁獲情報の集約を実施。また、日本海北部において標本船調査（体制構築含む）を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

各機関により、令和2年度評価で用いた情報に加え、以下の通り情報収集を実施した。

- ・青森県では主要21港（日本海側～陸奥湾）の2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・秋田県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・山形県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・新潟県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2006～2018年の月別漁法別漁獲量ならびに1974年以降の年間漁獲量を精査中。
- ・石川県では主要10港の2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・福井県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。1992～2018年の月別漁法別漁獲量を精査中。
- ・京都府では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・鳥取県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・島根県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・水産資源研では農林統計ならびに各府県調べの漁獲量を集約し、富山県では漁獲量が少なく県調べ（一部主要港）の集計はないことを確認。また、日本海北部における標本船調査（体制の構築を含む）を関係県とともに実施。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：令和2年度評価報告書を参照
- (2) 年齢・成長：令和2年度評価報告書を参照
- (3) 成熟・産卵：令和2年度評価報告書を参照
- (4) 被捕食関係：令和2年度評価報告書を参照

(4) 備考

- ・日本海北部による標本船調査でのデータ蓄積がさらに必要。

18. キツネメバル・日本海北部（青森～島根）

海域	日本海北部（青森～石川）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター
----	--------------	------	---

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、各県の漁獲情報の集約を実施。また、日本海北部において標本船調査（体制構築含む）を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

- 各機関により、令和2年度評価で用いた情報に加え、以下の通り情報収集を実施した。
- ・青森県では主要21港（日本海側～陸奥湾）の2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・秋田県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・山形県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・新潟県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2016～2018年の月別漁法別漁獲量は精査中。
 - ・富山県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・石川県では主要10港の2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・水産資源研では各府県調べの漁獲量を集約した。また、日本海北部における標本船調査（体制の構築を含む）を関係県とともに実施。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：令和2年度評価報告書を参照
- (2) 年齢・成長：令和2年度評価報告書を参照
- (3) 成熟・産卵：令和2年度評価報告書を参照
- (4) 被捕食関係：令和2年度評価報告書を参照

(4) 備考

- ・多くの地域で、集計では他種と合算されており、精査が不可欠。
- ・日本海北部による標本船調査でのデータ蓄積がさらに必要。

19. ハツメ・日本海（青森～島根）

海域	日本海（青森～島根）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
----	------------	------	--

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報、漁場別漁獲情報の収集、日本海西部および北部における資源調査（分布調査）および各県調べの漁獲情報の集約を実施。また、日本海北部において標本船調査（体制構築含む）を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集ならびに底びき網による漁獲情報の収集を実施。

(2) データ収集状況

- 各機関により、令和2年度評価で用いた情報に加え、以下の通り情報収集を実施した。
- ・青森県では主要21港（日本海側～陸奥湾）の2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・山形県では2020年の月別漁獲量を収集済み。
 - ・新潟県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2016～2018年の月別漁法別漁獲量は精査中。
 - ・石川県では主要10港の2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・福井県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・京都府では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・鳥取県では2011～2018年および2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2010年以前の沖底漁獲量は精査中。
 - ・島根県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2007～2018年の月別漁法別漁獲量は精査中。
 - ・水産資源研では各府県調べの漁獲量を集約し、秋田県、富山県、兵庫県では漁獲量が少なく、県調べの集計がないことを確認。また、日本海西部・北部における資源調査ならびに標本船調査（体制の構築を含む）を関係県とともに実施。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：令和2年度評価報告書を参照
- (2) 年齢・成長：令和2年度評価報告書を参照
- (3) 成熟・産卵：令和2年度評価報告書を参照
- (4) 被捕食関係：令和2年度評価報告書を参照

(4) 備考

- 多くの地域で、メバル類やその他の集計として他種と合算されていることもあり、引き続き、精査が不可欠。
- 日本海西部・北部による資源調査や標本船調査でのデータ蓄積がさらに必要。
- 日本海西部と日本海北部の個体群の生物学的・遺伝学的関係を調べることが重要。

20. ケガニ・日本海北中部（青森～石川）

海域	日本海北中部（青森～石川）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター
----	---------------	------	---

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、各県の漁獲情報の集約を実施。また、日本海北部において標本船調査（体制構築含む）を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

- 各機関により、令和2年度評価で用いた情報に加え、以下の通り情報収集を実施した。
- ・青森県では主要21港（日本海側～陸奥湾）の2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・秋田県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・山形県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・新潟県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2018年以前の月別漁法別漁獲量は精査中。
 - ・富山県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・石川県では主要10港の2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・水産資源研では各府県調べの漁獲量を集約した。また、日本海北部における標本船調査（体制の構築を含む）を関係県とともに実施。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：令和2年度評価報告書を参照
- (2) 年齢・成長：令和2年度評価報告書を参照
- (3) 成熟・産卵：令和2年度評価報告書を参照
- (4) 被捕食関係：令和2年度評価報告書を参照

(4) 備考

- ・本海域における生物特性を調べるのが重要。
- ・日本海北部による標本船調査でのデータ蓄積がさらに必要。

21. トゲザコエビ・日本海（山形～島根）

海域	日本海（山形～島根）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 海洋環境部 および底魚資源部、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
----	------------	------	---

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、日本海西部および北部における資源調査（分布調査）および各県調べの漁獲情報の集約を実施。また、日本海北部において標本船調査（体制構築含む）を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

各機関により、令和2年度評価で用いた情報に加え、以下の通り情報収集を実施した。

- ・山形県では2020年の月別漁獲量を収集済み。
- ・新潟県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・富山県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・石川県では主要10港の2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・福井県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・京都府では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・鳥取県では2013～2018年および2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・島根県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2007～2018年の月別漁法別漁獲量は精査中。
- ・水産資源研では各府県調べの漁獲量を集約し、青森県、秋田県では漁獲がほぼなく、県調べの集計がないことを確認。また、日本海西部・北部における資源調査ならびに標本船調査（体制の構築を含む）を関係県とともに実施。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：令和2年度評価報告書を参照
- (2) 年齢・成長：令和2年度評価報告書を参照
- (3) 成熟・産卵：令和2年度評価報告書を参照
- (4) 被捕食関係：令和2年度評価報告書を参照

(4) 備考

- ・多くの地域で、ザコエビ類やその他エビ類の集計として他種と合算されており、引き

続き、精査が不可欠。

- ・日本海西部・北部による資源調査や標本船調査でのデータ蓄積がさらに必要。

22. クロザコエビ・日本海（山形～島根）

海域	日本海（山形～島根）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部および海洋環境部、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
----	------------	------	---

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、日本海西部および北部における資源調査（分布調査）および各県調べの漁獲情報の集約を実施。また、日本海北部において標本船調査（体制構築含む）を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

各機関により、令和2年度評価で用いた情報に加え、以下の通り情報収集を実施した。

- ・山形県では2020年の月別漁獲量を収集済み。
- ・新潟県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・富山県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・石川県では主要10港の2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・福井県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・京都府では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・鳥取県では2013～2018年および2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・島根県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2007～2018年の月別漁法別漁獲量は精査中。
- ・水産資源研では各府県調べの漁獲量を集約し、青森県、秋田県では漁獲がほぼなく、県調べの集計がないことを確認。また、日本海西部・北部における資源調査ならびに標本船調査（体制の構築を含む）を関係県とともに実施。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：令和2年度評価報告書を参照
- (2) 年齢・成長：令和2年度評価報告書を参照
- (3) 成熟・産卵：令和2年度評価報告書を参照
- (4) 被捕食関係：令和2年度評価報告書を参照

(4) 備考

- ・多くの地域で、ザコエビ類やその他エビ類の集計として他種と合算されており、引き

続き、精査が不可欠。

- ・日本海西部・北部による資源調査や標本船調査でのデータ蓄積がさらに必要。

23. キジハタ・日本海（秋田～島根）

海域	日本海（秋田～島根）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
----	------------	------	---

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、各県調べの漁獲情報の集約を実施。また、日本海北部において標本船調査（体制構築含む）を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

各機関により、令和2年度評価で用いた情報に加え、以下の通り情報収集を実施した。

- ・秋田県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・山形県では2020年の月別漁獲量を収集済み。
- ・新潟県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・富山県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・石川県では主要10港の2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・福井県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・京都府では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・鳥取県では1992～2010年の年間漁獲量、2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
- ・島根県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2007～2018年の月別漁法別漁獲量は精査中。
- ・水産資源研では各府県調べの漁獲量を集約し、青森県では漁獲量が少なく、年間1トン未満であることを確認。また、日本海北部においては標本船調査（体制の構築を含む）を関係県とともに実施。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：令和2年度評価報告書を参照
- (2) 年齢・成長：令和2年度評価報告書を参照
- (3) 成熟・産卵：令和2年度評価報告書を参照
- (4) 被捕食関係：令和2年度評価報告書を参照

(4) 備考

- ・日本海における生物特性に関する調査研究が不可欠。

- 日本海南西海域の漁獲が多く、他海域も含めた地先個体群間の遺伝学的関係に関する知見が必要。
- 日本海北部においては標本船調査等によりデータを蓄積し、漁獲状況を把握することが必要。

24. シイラ・日本海（青森～島根）

海域	日本海（青森～島根）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
----	------------	------	--

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は生物情報の収集、各県調べの漁獲情報の集約を実施。
- ・各県は漁獲統計の収集を実施。

(2) データ収集状況

- 各機関により、令和2年度評価で用いた情報に加え、以下の通り情報収集を実施した。
- ・青森県では主要21港（日本海側～陸奥湾）の2007年以降の年間漁獲量ならびに2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・秋田県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・山形県では2020年の月別漁獲量を収集済み。
 - ・新潟県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・富山県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・石川県では主要10港の2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・福井県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・京都府では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・鳥取県では2011～2018年および2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。
 - ・島根県では2020年の月別漁法別漁獲量を収集済み。2007～2018年の月別漁法別漁獲量は精査中。
 - ・水産資源研では各府県調べの漁獲量を集約した。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：令和2年度評価報告書を参照
- (2) 年齢・成長：令和2年度評価報告書を参照
- (3) 成熟・産卵：令和2年度評価報告書を参照
- (4) 被捕食関係：令和2年度評価報告書を参照

(4) 備考

- ・他海域も含めると生態特性に関する基礎知見はあるものの、日本海における生態学的

および遺伝学的な資源構造は不明である。

- 日本海全域で漁獲されており、漁獲量集計はあるものの、他の魚類と一括で集計されている地域もあり、集計値の精査が引き続き必要である。